

KANAGAWA HOHYUH CLUB

神奈川県放友会



Newsletter

Vol.17.No1. Jan.2024
第 65 号

神奈川県放射線友の会 (略称 神奈川県放友会)

〒231-0033 横浜市中区長者町 4 丁目 9 番地 8 号
ストーク伊勢佐木 1 番館 501 号

TEL 045-681-7573 FAX 045-681-7578

発行人 中村 豊

発行日 2024 年(令和 6 年) 1 月 1 日

「高レベル放射性廃棄物の地層処分」の理解と広報活動の意義

会長 中村 豊

あけましておめでとうございます。

会員の皆様にはご健勝にて穏やかな一年であることをお祈りします。

令和 5 年度は新型コロナ感染も収束して、新役員組織にて、計画した活動を順調に続けています。

NUMO 学習支援事業参加は 3 年連続となり、整理して報告します。

本会は、2011 年 3 月 11 日の福島第一原発事故により環境に放出された放射性物質による市民の心配を科学的に正しい情報を発信することにより軽減できると考え、特に「食品の安全」について以下の出版物 3 巻を発行して、啓発活動を続けてきた。

2012, 9, 15	食と放射線-放射線と共生するために -
2013, 11, 10	食と放射線-安全・安心への取り組み -
2017, 9, 19	食と放射線-汚染実態と風評被害 -

また、東京電力パワーグリッド神奈川支社の協力を得て、2018 年 7 月 11~12 日に**福島第一・第二原発と富岡町を視察**し、原発事故の過酷さや廃炉事業の実際と避難しなければならなかった福島県民の深刻さなどを実感し、核燃料デブリの取り出しなどの難解な廃炉作業や貯まり続ける ALPS 処理水や使用済み原発燃料処分の重要性を認識した。この視察記録は「**福島原発と富岡町訪問記**」にまとめてある。

この後、「高レベル放射性廃棄物の地層処分」は、原子力発電による電力を利用してきた世代として次世代に先送りしてはいけない重要な課題で、子や孫の未来世代に過度の負担を強いることのない方法であることを知った。そして本会の活動方針として「地層処分」の広報活動にも取り組む必要があると認識した。

そのため、原子力発電環境整備機構 (NUMO) が支援する「高レベル放射性廃棄物の地層処分について理解を深める活動支援事業」への参加を本会の令和元年度事業として決定した。

会員有志が「地層処分」の公開されている資料を持ち寄り、5 回の勉強会を開催した。そして、朽山 修氏 (原子力安全研究協会 技術顧問) による事前勉強会を開催し、令和元年 11 月 12~13 日**青森県六ヶ所村「日本原燃原子燃料サイクル施設」**を見学した。この経験から日本に

おける原発燃料サイクルや高レベル放射性廃棄物処理の現状などの知識を深め、六ヶ所村「**日本原燃 原子燃料サイクル施設**」としてまとめた。そして会員に「**地層処分**」を理解し、考えてもらうために「**放射性廃棄物の処理**」-知り・学び・考えよう-を発刊して配布し、日本の原子力利用の歴史・諸外国の原子力発電事情・放射性廃棄物・地層処分等について知識を深めていただいた。

令和 3 年は幌延深地層研究センターについての基礎勉強会、WEB 交流会、学習支援事業説明会&座談会の参加などを行い、令和 3 年 10 月 18~19 日**幌延深地層研究センター見学**を実施した。実際に地下 250m 調査坑道に降り、現場で説明を受けると具体的に深地層の知見を深め、日本の地層処分技術に信頼が持てた。この記録は**北緯 45 度「幌延深地層研究センター」見学記**にまとめた。

日本の「高レベル放射性廃棄物地層処分」の情報や資料は経産省エネルギー庁、NUMO など原子力行政に関連する政府機関から膨大に提供されているが、検索には手間や時間が掛かる。これらの情報を整理して市民と共有し、自分事として考える一助として令和 4 年 2 月 28 日に**原子力発電 廃棄物の最終処分を考える**-知り・学び・理解しよう-を発行した。

今年度は 10 月 16~17 日「**東海第二発電所・JAEA 核燃料サイクル工学研究所**」の見学を実施し、事前勉強会として講師・岡本弘信氏 (日本原子力学会シニアネットワーク連絡会、元・核燃料サイクル開発機構) による「**核燃料サイクルと放射性廃棄物管理**」を行った。見学した東海第二発電所の安全性の向上や乾式貯蔵設備、JAEA の地下深部環境の試験研究などは参加者から報告する。

また新型コロナ感染以来、3 年ぶりとなる**市民公開講演会「我が国の高レベル廃棄物地層処分の概況」**講師若杉圭一郎教授 (東海大学工学部) を 12 月 3 日に開催した。講義は日本のエネルギー事情から始まり、高レベル廃棄物、地層処分、日本の地層処分事業の現状まで分かり易く説明され、有意義であった。参加者には本会が作成したリーフレット、パンフレットなどが配布された。残念ながら「**原発の使用済燃料の処理と地層処分**」は未だ市民に知られず、関心がないのが現状で参加者は少なかったが、この広報活動は継続しなければならない。

東海第二発電所・核燃料サイクル工学研究所を見学

長谷川 武

2023年(令和5年)度のNUMO学習「地層処分」の理解に向けた選択型学習支援事業」に応募し、2023年10月16日(月)・17日(火)の一泊二日で、茨城県東海村の日本原子力発電(株)「東海第二発電所」と国立研究開発法人日本原子力開発機構「核燃料サイクル工学研究所」を見学できたので報告します。

原子力発電環境整備機構(NUMO)が主催する学習支援事業の勉強会でしたが、本会は「高レベル放射性廃棄物の地層処分」の理解に向けた学習を続けており、六ヶ所村再処理施設と幌延深地層研究センターに次ぐ3度目になる視察勉強会です。

本会からの学習要望は、「原子力発電使用済燃料の処分、乾式貯蔵施設と核変換実験施設」の見学を希望したところ、茨城県東海村「東海第二発電所と核燃料サイクル工学研究所」の視察に至ったのです。

今回の参加者は、中村豊・長谷川武・橘亨・小嶋昌光・福田利雄・早瀬武雄の6名でした。

[専門家の講義を聞く]

東海第二発電所視察のための勉強会が16日13:15~15:15まで、品川カンファレンスセンターミーテングルームで、元日本原子力研究開発機構の岡本弘信講師により行われた。

ここでは「核燃料サイクルと放射性廃棄物処理処分」及び「J-PARCにおける核変換の研究」の講義を受けました。その概要は「東海再処理施設の歴史、施設の概要・実績、ガラス固化技術開発施設の工程概要、六ヶ所再処理工場について、核燃料サイクルの仕組み、高速炉サイクルの意義、MA分離による廃棄物減容・有害度低減、放射性廃棄物の種類と処分の概要、原子力発電所の現状、高レベル放射性廃棄物(ガラス固化体)の発生・貯蔵、最終処分の必要性、原子力利用国の共通課題、地層処分計画の進展、研究開発拠点と施設、地層処分システムの長期挙動の理解、地層処分に関する技術開発の成果リスト、地層処分の仕組み・リスクと対策の考え方、地域との共生に向けた取り組み」でしたが、プラスαで「J-PARCにおける核変換の研究」について「陽子ビームで探る高エネルギー」を話され、関連の資料を紹介してくれました。今回の視察企画では、多少の予習を行って来ているので、講演内容は理解出来る内容でした。

時間の関係もありましたが、2~3の質問もできました。

「廃棄物の最終処分を考える」を学ぶ我々クルーには、現状理解に大変役に立った講義でした。

午後3時20分ごろ勉強会を終えて、あわただしく品川駅9番ホームへ向かい、15:45発の「ひたち19号」に乗る。電車は東京・上野からはノンストップであり、次が目的地水戸17:05到着でした。



見学者全員原子力館前にて

[東海第二発電所]見学

17日(火)08:30予定通りジャンボタクシーでホテルを発つ。国道245号線茨城県央エリアの東海村へ向かう。東海第二発電所の原子力館前に、09:30約束時間の10分程前に到着した。

東海村周辺には、日本原子力発電の東海発電所・東海第二発電所と東海原子力館、日本原子力研究開発機構本部・原子力科学研究所・核燃料サイクル工学研究所等が存在する。

原子力館の玄関前左側広場には、昭和57年9月18日にイギリスのサッチャ首相が訪問しており、視察の記念樹が植えられてあった。この縁は我が国最初の商業用発電所(昭和41年運転開始)が、イギリスより導入した関係から訪問を受けたと記してあった。

事業本部の会議室には原電の資料が準備されており、部長さんの挨拶を受けて、スライドにて第二発電所及び使用済燃料乾式貯蔵施設の概要を聞く。また、構内視察のための注意事項等の説明を受けた。まずは、訪問者の身分証明の確認のため、車の免許証にて本人確認を受けて、構内視察の許可証を受取り、携帯電話、カメラの持ち込みは禁止。テロ対策の一環として、爆発物の検査、金属

探知機による検査があり、施設への入構には、厳しいボディチェックでした。チェックに再三引っ掛かり戸惑った方も。薬（アルミ箔包装）や百円玉がポケットに入っており、それが原因で厳しいチェックを受けたのです。

発電所全景視察では、建屋の屋上から防潮堤工事の全様を見ながら説明を受けた。20mの高さで約2kmの防潮堤工事の様子が良く見え、鋼管杭鉄骨コンクリート防潮堤が築かれていた。強度を増すために、鋼管杭を60mの深さの岩盤迄打ち込んでいるのだと言う。津波による影響を防ぐ安全上重要な設備なので、安全性向上対策を実施していると言う。

構内を車で案内されたが、重大事故への対策として、電源確保の多様化、原子炉などの冷却機能の多様化への改良工事の概要説明を聞く。

車を降りて「使用済燃料乾式貯蔵施設」に案内された。ここは東海第二発電所の使用済燃料を貯蔵する場所で、キャスクを保管するための建屋であり、発電所として使用済燃料の貯蔵能力を拡大するための乾式貯蔵施設でした。貯蔵施設の概要は、建屋：約26m×約54m、高さ約21m、構造：鉄筋コンクリート造・杭基礎構造、貯蔵容量：24基（約250tU）、燃料収納対数：61体/基でしたが、燃料収納済みは15基（915体の使用済燃料を貯蔵）で、残り9基は使用前検査中又は計画中でした。

乾式キャスク貯蔵施設の安全機能については、①冷却機能が確保されている（キャスク表面の温度を測定し、冷却機能を確保している）②閉じ込め機能（キャスクの蓋を二重構造にしている）③遮へい機能（キャスクは、胴部、二重蓋で遮へいし、放射線モニターで確認）④臨界防止機能（中性子吸収材を加えた仕切り版で、核分裂の連鎖反応を防ぐ構造）が確認されている。これで安全は確保されていると説明であった。

「ドライキャスクに手を触れてみてください」と進められて触ってみると、暖かく45度程だった。水・電気を使わずに冷却されている乾式キャスク方式を、建屋や構造キャスクを確認し、合わせて安全性の管理体制を確認できたので、納得できた。

被曝線量計のチェックは代表者の線量計で評価されたが、被曝線量は0でした。ドライキャスクの表面線量は0.005mSv/h～0.010mSv/hだったので、問題ない事は理解できました。

最後に、質疑応答時間がありました。「発電所は何時から動くのか」「第二原発の使用済燃料の全て

がここで貯蔵されているのか」などでしたが、2時間の予定通りの見学でした。

見学グループは他のグループもおり、使用済燃料の貯蔵施設等を熱心に視察しておりました。

今、話題の「使用済燃料乾式キャスク貯蔵施設」ですが、見学出来たことは、理解が深まり良かったと思います。

[JAEA 核燃料サイクル工学研究所]見学

13:00～14:30で「地層処分基盤研究施設（エントリー）、地層処分放射化学研究施設（クオリティ）」の見学でした。ここは樹木に囲まれた広～い、広～い敷地の中にあった。ここでも見学者の本人確認が厳しく、カメラの持ち込みも出来ませんでした。

施設の入口ホールは、深層地下のイメージや地層処分の概念が分かる展示ホールになっている。東海第二発電所ではパンフレット資料の提供が準備されてあったが、ここでは無く、展示ホールのもを自由に頂くことができた。

研究テーマによる研究室がそれぞれ設けられおり、放射性物質が付着した人工バリアや岩石の分析や観察、液体に溶け込んだ極わずかな放射性物質の化学形態や量の測定を高い精度で行われていた。そのための分析装置が並んでいる。また、酸素のない深地層の雰囲気模擬した、グローブボックスでの試験分析が行われている様子が見えた。試験や分析の例では、ガラス固化体の放射性物質は深地層の地下水で溶けるのか、人工バリアや岩石に収着するのか、また移動するのか、地下水に溶けるとどんな化学形になるのかなど、多くのテーマに挑戦していた。

地層処分基盤研究と地層処分放射化学研究により、深部地質環境に関する研究・技術検証が進められている研究施設の一端を見学出来ました。駆け足でしたが14:30に予定通り終了した。この施設・研究等は、他国にはない研究・施設であるという。地層処分の基礎研究や放射化学研究が地道に行われており、幌延深地層研究センターと合わせての人工バリア研究や技術開発等が進められている道のりを理解できました。

聞き・見て・触れての学習に感謝します。15:00 東海駅では、勉強会総括アンケートの記録を記した。水戸駅で乗り換え、特急ときわ74号に乗る。上野・東京・品川駅（17:22）でサヨナラしたが、通勤時間帯にぶつかったので、皆さんにはご苦勞願ったことと思います。お疲れ様でした。



感動の東北四大夏祭りの旅に参加して

青森ねぶた祭・秋田竿燈まつり・山形花笠まつり・仙台七夕まつり

福田 利雄 (会員No11)

2023年8月東北四大夏祭りツアーに夫婦で参加した。ツアー料金はかなり高額、家内は当初、お祭りは夕方から、ホテルでの夕食はない、泊まるだけ、そんなに高級でなくても良い・・・と言っていたが、旅を終えてから・・・「全部良かった、楽しかった」と言ってくれたのである。

青森ねぶた祭 (1日目) 2023年8月4日(金)

東京駅発東北新幹線(グリーン車)で盛岡駅へ、大型観光バスで青森市へ約2時間30分、大型ねぶた制作小屋が建ち並んでいる「ねぶたラッセランド」に到着した。見学終了後ねぶた祭会場近くの「ホテル青森」で早めの夕食を取り、ねぶた祭パレード会場へ向かう。観覧席(有料)からのねぶた祭りの見学と参加である。

感動! ねぶた祭パレードはじまる・・・

昨年大型ねぶたは15台制作されたが、今年2023年は23台制作された。制作団体毎に出陣、その登場順序は、①先導ねぶた ②ハネトの集団 ③太鼓主流 ④お囃子、



笛と鉦(かね) ⑤そして最後に大型ねぶたが続くのである。

◆ハネトとは・・・

ねぶたの周りで鈴の音を鳴らしながら「ラッセラー! ラッセラー!」の掛け声で跳ねている踊り子・踊り手の事である。片足で2回ずつ順番にピョンピョン跳ねて踊る。



◆太鼓主流

各団体により、太鼓の組み合わせ・大きさ・太鼓の数は異なっていたが、ねぶた祭のお囃子の出だしを務める重要な役割を担っている。この後ろに笛と鉦(かね)、大型ねぶたが続くのである。

◆19台の大型ねぶたパレード

本日は23台の大型ねぶたのうち19台が出陣した。パレード参加者の地元の皆さん、ハネトの踊り手、太鼓、お囃子の方々へ観覧席から大きな声援・拍手が送られた。

パレード参加者からも観覧席へ、見物客へ手を振るなど、団扇を配ってくれるなど、会場全体で一体感がうまれ、お祭りの雰囲気最高となったのである。約2時間、子供から大人の男性・女性のハネトによるにぎやかな踊り、迫力ある19台の大型ねぶた等のパレードを直に目の前で見る事ができて大満足であった。素晴らしかった。

ねぶた師史上初の女性ねぶた師 18番出陣 題名「土蜘蛛(つちぐも)」



正面ねぶた

制作者の北村麻子(41歳)さんは、ねぶた師史上初の女性ねぶた師である。昨年「市長賞受賞」した。父親はねぶた師の名人である。



背面ねぶた

ねぶた師とは祭のメインである山車、ねぶたを作る制作者の事をいう。

21:00 ねぶた祭終了、2日目「竿燈まつり」開催地の秋田県に向かう。宿泊ホテルには24:00頃に到着した。

秋田竿燈まつり (2日目) 2023年8月5日(土)

自然に恵まれた北東北の地、湯瀬温泉郷の山間に囲まれた閑静なホテルを10:45に出発した。秋田市において開催される「竿燈まつり」の開始時刻は19:00である。



秋田市に向かう途中、秋田の観光名所に立寄ったのである。玉川ダム、田沢湖、角館である。角館で昼食をとり武家屋敷等を見学した。

秋田市のお祭り会場近くのホテルで早めの夕食を頂いた。

🍁 秋田竿燈まつりパレード・・・

竿燈まつりとは・・・

竿燈全体を稲穂に、連なる提灯を米俵に見立て、演技として、手の平、額・腰・肩などにのせ、豊作を祈る国の重要無形民俗文化財にも指定されているまつりである。



19：00 水平に寝かせた状態で竿燈が続々と入場してきた。秋田市内の町内会、学校、職場等、約67団体が参加し竿燈の数は大小合わせて280本、提灯の数は10,000個を超えるとの事である。

「ドッコイショー、ドッコイショー」の掛け声やおはやしの笛の音とともに大きな竿燈を自由に操る「差し

手」による演技が開始された。大きな竿燈の重さ50kg、バランスをとりながら手、額、肩、腰で支えるのである。約2時間の間、行進、演技、行進・・・素晴らしかった。

🍁 秋田竿燈まつり終了

21：00 明日見学予定の「花笠まつり」開催地の山形県に向かって出発する。宿泊予定の山形県由良温泉「ホテル八乙女」に到着したのは23：00を少し過ぎていた。

🍁 山形花笠まつり（3日目）2023年8月6日（日）

朝、ホテル5Fの部屋の窓から、青々した大海原が広がる日本海と岩山が続く海岸の雄大な景色を見る事が出来た。10：00 ホテルを出発、山形のパワースポットとして有名な羽黒山で出羽三山の三神を祀った大社殿で御祈祷を受けた。



鶴岡市の庄内観光物産館を見学、市内レストランで鶴岡料理の昼食、山形道を走り、天童市のレストランで早めの夕食、花笠まつり会場へ向かう。観覧席は無く沿道からの見学である。花笠まつりパレードは18：00から始まった。



約160の団体が登場し、14,000人を超える踊り手が参加したのである。山形県を象徴する紅花をあしらった笠を使用し、「ヤッショ、マカショ」の掛け声花笠音頭で踊っているのである。



地元の高校生が多く参加していた。地元の伝統や文化を守るためアイデアや工夫を凝らし元気いっばいに踊っていた。19：30最後の団体が踊りながら通り過ぎて行った。花笠まつりのパレードの終了は21：00頃であるが、3日目の宿、仙台の奥座敷「秋保温泉」に向かって会場を後にした。ホテルには22：00前に到着した。

🍁 仙台七夕まつり（4日目）2023年8月7日（月）

涇流のせせらぎを聞きながら温泉に浸かり、美味しい朝食を頂き、10：00に宿を出発した。秋保温泉より更に山奥に入り日本三大名瀑と言われている「秋保の大滝」を見学、その後、仙台といえば伊達政宗、その居城跡である青葉山公園を見学した。



13：00 仙台駅で自由解散、各自で仙台七夕まつり見学となった。仙台駅前のハピナ名掛丁とクリスロード商店街、二つの大きなアーケード商店街の七夕飾りを見学した。



仙台の七夕まつりは8/6～8/8に開催であるが、以前は旧暦の7月7日に行われていた様である。新暦と旧暦の間の中歴を用いることで、現在の開催期間となっているとの事である。東北の夏祭り、ねぶた祭、竿燈まつり、花笠まつり等の開催時期と合わせたのかも・・・。七夕飾りのほとんどが吊り下げの吹き流しであった。



約1時間、二つのアーケード街の七夕飾りを見物した。



🍁 旅を終えて

日本国内でも有名な四つの夏祭りを直に観る事ができ有意義で楽しい旅であった。

神奈川放友会のホームページに写真100枚以上使用し、更に詳細に東北四大夏祭りの旅の記事を投稿しましたので見て読んで頂ければ幸いです。

横須賀軍港巡り報告

報告者 橋 亨

コロナ禍から4年ぶりに、参加できる事業を企画し、「ヴェルニー公園の散策&横須賀軍港巡り」を令和5年11月4日(土)に行いました。快晴の秋晴れの中、三連休中日という事もあり10名の参加者ではありましたが、それぞれ横須賀駅とヴェルニー公園内のあずまやの二か所に集合し、合流後、先ずはヴェルニー公園内庭園を綺麗に咲いたバラの花を見ながら散策しました。



途中公園内にある近代遺産ミュージアム「よこすかティボディエ邸」を見学、ここは横須賀製鉄所の副首長のティボディエ氏が住んでいた官舎を復元した資料館で、日本近代化の礎となった明治時代の最古級の木造洋風建築の西洋館の様式となっており、当時横浜や神戸などに建てられた西洋館のモデルになったと言われています。



「よこすかティボディエ邸」

館内の資料館には、当時の横須賀製鉄所の歩みが展示されていました。この横須賀製鉄所をつくりあげたのが、フランス人技師ヴェルニー。フランス庭園様式を取り入れて再整備を行い、功績を称えてその名を冠した公園が「ヴェルニー公園」です。



「ヴェルニー記念館」へ向かいました。

この公園内にはもう一つ「ヴェルニー記念館」があり、私達はティボディエ邸見学後、「ヴェ



「ヴェルニー記念館」



ここは、フランス人技師ヴェルニーの功績と、横須賀製鉄所の意義を伝えるために建てられ、館内には、国指定重要文化財にも認定されている2台のスチ

ームハンマーが展示されていました。



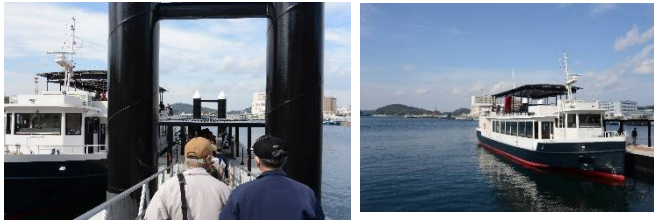
「スチームハンマー」

「ヴェルニー記念館」を見学した後、私達は乗船までまだ少し時間があつたので、公園内で放友会の長谷川名誉会長による海上自衛隊に関するクイズ遊びを行い、日本国内には何隻の艦艇があるか？艦艇の種類にはどんなものがあるか？海上自衛隊の基地はどこにあるか？等のQ&Aで、皆さん知らない事ばかり、初めて知る事が非常に多く、たいへん参考になりました。



ヴェルニー公園散策後、私達は12時便に乗船するために、「汐入ターミナル」乗船口に向かいました。連休中ということもあり、すでに長蛇の列、大変混雑していました。船はほぼ満席、少し後方に並んだため、一階船室に乗船しました。

少し解説を加えると、横須賀港は今から約 160 年前に米国ペリー艦隊が上陸して以来、海軍港として発展してきました。アメリカ海軍施設と海上自衛隊の司令部が置かれた港として知られています。この



「横須賀軍港めぐり」は、アメリカ海軍や海上自衛隊の艦船を同時に間近で見る事が出来る、日本唯一のクルージングツアーです。ここで見られる艦船は実に多彩で、海上自衛隊の潜水艦や護衛艦、米海軍のイージス艦、タイミングによっては、空母、砕氷船（南極観測船）などが見られると言われてい



クルーズ船が出港すると、いきなり横に潜水艦が・・・一隊員が潜水艦の上から手を振ってくれ、館内から拍手が起きました。



明るくユーモアたっぷりの船内ガイドさん、ガイドさんの説明によると、今回、残念ながら、空母「ロナルド・レーガン」は9月29日に出港していて、見る事が出来ませんが、イージス艦、護衛艦、また潜水艦は4隻見る事が出来るとの解説でした。

暫くすると、次から次へと色々な艦船が見えてきました。間近に見る艦船はかなりの迫力があります。



「イージス艦」



イージス艦は高性能レーダーを備えているのですが、外見からはレーダーらしきものは見当たらず、ガイドさんによると、レーダーは船体に貼られた六角形の窓に隠されているのだと説明がありました。



潜水艦が3隻並んでいるところが見られる事は非常に珍しいとの事でした。約45分間のクルーズも終わりがけた頃、オレンジの船体が現れました。南極観測船「しらせ」です。メンテナンスと十分な食料補給を終え、再出発を待っていました。



あっという間の45分間、快晴の中青い海の上のクルーズはとても楽しいものでした。4年振りの放友会の外でのイベント、いつもは企画されたイベントに参加するだけの私でしたが、今回担当者となり、コース選びや乗船予約等、結構忙しく走り回りましたが、参加された皆さんがとても喜んで下さった事が救いです。また、このような企画がありましたら、放友会の皆さん、是非ご参加下さい。一緒に楽しく過ごしましょう。

解散後、有志で汐留駅近くで、楽しく放談会？で盛り上がった事は言うまでもありません。



「参加者の皆さん記念撮影」

おめでとう 藤井聡太君 八冠達成

橋口 邦紘

明けましておめでとうございます。

10月11日夜藤井君の八冠達成報道後編集部より感想を書く様依頼のメールが来ました。

気ばかり焦って何も浮かびません、こんな時に「観る将」の頼りになるのがあの棋士達です。

永瀬王座勝てば3人目の永世称号、名誉王座獲得、藤井七冠勝てば史上初の八冠達成となる大一番、思えば2017年藤井君が四段の時「炎の七番勝負」第2局永瀬六段戦藤井君のミスにより永瀬六段勝利、対局後藤井君は「永瀬先生は大変強いので教われた事は光栄ですし、これから同じ様な気持ちで戦って行きたいです」と語った。だが羽生三冠には勝った為、中学生が羽生さんを負かしたと大ニュースとなり、スポーツ新聞の一面を飾った。対局後羽生さんは「凄い人が現れたなと思いました」とコメントした。

王座戦対局前藤井七冠「少しでも成長したところを見せられればと思っています」、永瀬王座「実績と勢いと実力を兼ね備えている藤井七冠で、とても厳しいとは思っていますが、皆様に良い将棋をお見せ出来ればと思っています」田中寅彦九段「藤井さんは此のシリーズ一番苦労した対局と思います、本当に凄いドラマが起きました、だからこそ今回これだけの素晴らしい将棋が出来たと思います。

永瀬王座は永世称号が掛かっている大事な対局と同時に将来こうなる事を予想して、研究パートナーとして藤井さんを若い時から追っかけていました、格上の棋士が頭を下げと一緒に将棋の勉強をしませんかとお願ひしたらこそ今回これだけの素晴らしい将棋が出来たと思います。

八大タイトルの他に一般棋戦として、NHK杯、銀河線、将棋日本シリーズ、朝日杯将棋オープン戦が有りますが昨年度全て優勝、4棋戦独占も史上初、藤井八冠が出られる全ての戦いに勝っています。羽生さんの時は十冠で勿論取りました、私はこう言う事はもう三度と起こらないと散々言いましたが、26年経ってそれが起きました、信じられない事を2度も見ました本当に幸せです。

トッププロはどんなに強くても勝率7割、時々8割を超える棋士が居ましたが続きませんでした、藤井さんは続けています。8割を続けるのは脅威です。

八冠になると、将棋普及の為の活動も此れまで以上に増えます、トッププロになると、調子を崩したり成績が落ちる事も多いです、今後藤井さんがどうなるか心配です。帰宅しても寛ぐ暇は有りません、免状に手書きの署名が待っています。(アマチュア向けの「段位を公認する証」現在3ヵ月1,000本以上が待っている)、此の署名は「竜王」「名人」の仕事で、手書きなので大変です。月300本が限界で、勿論羽生善治連盟会長もサインします、つまり七冠と八冠横並びの免状が貰えます、当然これを見越して1年遅らせた申請者も大勢います、大注目的なのです。

TV司会者「昨日の1分将棋のあの一手は、永瀬王座断然有利な状況で(AI診断99対1%)、永瀬王座が「5五馬」を指した後、何度も髪の毛をかきむしり、天を仰ぎましたが何

が起きたのですか」田中寅彦九段「読み切れて無かった、自分が勝ちだと分かっていたのだけど勝ちが見え無かった、普通に駒を捨てて王手で行けば永瀬さんなら詰んでいたと思います。藤井さんは午前中から苦戦していました、永瀬さんは藤井さんが「負けました」という道筋を作ったはずだったのでそこで詰まし損ねたという大事件が起きたのです。

(AI診断1対99%が99対1%に逆転した)

加藤一二三九段「21歳、デビュー7年弱でタイトル総なめですか、藤井八冠快挙ですよ。タイトル戦という大きな舞台の中で身に付けた局面を複雑にして、粘って、勝ちを拾うという第3の戦術でした。

デビュー間もない頃から得意だった一直線の攻め合い、対局を重ねる内に感覚的に体得した渋い受けと共に、藤井将棋の大きな柱となっている事が、八冠制覇の対局で明らかになりました。永瀬さんの角換わりから急戦で仕掛けるという作戦は悪くありません。研究して練って来たのでしょう。ただ、先手「5三馬」の局面は先手「4二金」で必勝でした、持ち駒はいっぱい有りましたし、良く研究して指して欲しかったです。奨励会初段でも出来る決め手でした。

「永瀬王座は何故その手を指したのか」

将棋AI「水匠」を開発した弁護士杉村達也さん「藤井先生がどんな手を指そうとも永瀬王座が勝ちだということまで来ていましたので、もうゲームとしては将棋AIの解析は終わっていた試合かなと思われます。藤井さんが「4銀、4四桂馬、2四桂馬」どれを選んでも永瀬王座の優位は変わらぬままでした、だが藤井さんが選んだ「5五銀」の返し手は複数ありますが、形勢が変わらない手は、「4二金」だけしか有りません、それ以外の最善手は形勢が一気に悪化してしまう一手だったのです。

対局も終盤に入り互いに1分という持ち時間の中で間違いの無い一手を求められた場合、そんな中ミスが出易い選択肢を相手に与え、惑わせる、それこそが「藤井流魔の一手」でした。正解は有るけども発見し難い手だとか、正解に見える手が他に有る様な場面を作り出すという形で、「人間的な勝負術」ですね「罠を張る一手とか相手を誘い込む一手は」は「魔の一手」と言っても良いと思います」「AIは「魔の一手」を最善手としないのか?」「AIは相手が間違いの無い事を前提にしているから、相手に間違ってもらおうという選択はしないからです。」

相手がミスしてしまう事も有りますが、それ以上にミスさせた事が藤井さんの凄さだと思います。藤井さんは不利な時に相手にミスさせ様としています。その「終盤力、勝負術」が素晴らしいのも藤井さんの特徴です

深浦康市九段「藤井さんが相手だったので非常にリードしていても怖かったと思いますよ、ですので思い切り踏み込めない、普段の将棋が指せなかったのではないのでしょうか」

編集後記

☆ ★ ☆ ★

会員の近況報告をお寄せください。